

一般社団法人 日本化学連合

平成 24 年度事業報告

「一般社団法人」日本化学連合に移行してから 3 年目に入り新会長（西出宏之前副会長）のもと、副会長、理事、監事の半数以上が新しい陣容に交代した。加盟学協会（16 団体）との協同を密にすべく、運営委員会と企画委員会には各学協会ではやり難い（一味違った）企画群の提案を、将来構想委員会には連合の役目とあり方、将来像の議論を依頼した。

1. 会員の増減と会費収入並びに補助金収入

正会員については 1 団体が会則上の理由で退会し賛助会員に移行したので現時点で会員数 16 となった。会費収入は 487 万円であり、前年度決算額に対し 42 万円減収であったが、これは退会会員の年会費減少分と他の 16 団体の会費対象会員数の減少によるものである。賛助会員については団体 2、個人 12 であり、合計 42 万円の会費収入があったが、同様に前年度決算額に対し 13 万円の減収であった。

また、（株）化学工業日報社および（一社）化学情報協会より日本化学連合主催事業「コミュニケーション賞 2012」の活動に対し、計 100 万円（@50 万円）の共催金を受けた。

2. 日本化学連合平成 24 年度活動報告

2.1 化学コミュニケーション賞 2012

日本化学連合では設立の趣旨である『化学関係団体が賛同して開催する事業』を強化発展させるため、わが国において化学・化学技術に関係する啓発活動、情報発信などにより、化学教育、化学産業の育成、発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度を平成 23 年度に創設した。本年度（平成 24 年度）も引き続き「化学コミュニケーション賞 2012」を主催した。「社会のなかの化学」「社会のための化学」を化学コミュニティー内外に発信し、社会と化学者の間で「化学の知」を双方向に共有するためのコミュニケーション力の強化に携わってこられた方々および、団体を表彰すると同時に、シンポジウムを開催し、その意義を社会にアピールすることを目的としている。

理事（運営委員会委員）を中心としたワーキンググループ(WG)によって「化学コミュニケーション賞 2012」の企画、立案、募集が実施された。

[化学コミュニケーション賞 2012 WG 委員会]

委員長	伊藤 卓（理事 選考委員長 横浜国立大学 名誉教授）
委員	井手本 康（理事 電気化学会）
委員	鞠谷 雄士（理事 繊維学会）
委員	小林 憲正（横浜国立大学大学院工学研究院 教授）
委員	関根 泰（理事 石油学会）
委員	村松 淳司（理事 触媒学会）

本年度の「化学コミュニケーション賞 2012」は㈱化学工業日報社、（一社）化学情報協会、（独）科学技術振興機構の共催、（一社）日本サイエンスコミュニケーション協会の後援により 2012 年 11 月 15 日から募集を開始した。

2013 年 1 月 25 日に締め切り、個人 6 件、団体 7 件、合計 13 件の応募があった。

[化学コミュニケーション賞 2012 賞選考委員会]

委員長	伊藤 卓 (横浜国立大学 名誉教授)
委員	青山 聖子 (サイテック・コミュニケーションズ)
委員	内田麻理香 (サイエンスライター/サイエンスコミュニケーター)
委員	織田島 修 (化学工業日報社 代表取締役社長)
委員	小林 憲正 (横浜国立大学大学院工学研究科 教授)
委員	津山 重雄 (化学情報協会 理事 企画管理室長)
委員	村松 淳司 (東北大学多元物質科学研究所 教授)
委員	渡辺 政隆 (筑波大学広報室 教授)

これらの応募案件について、あらかじめ選任された選考委員により書面評価を行ったうえ、2013年2月15日(金)に開催の選考委員会で、化学コミュニケーション賞3件(個人2件、団体1件)と審査員特別賞2件(個人・団体各1件)を下記の通り選定した。

化学コミュニケーション賞(個人)

受賞者:井上 浩義(慶應義塾大学 医学部 化学教室 教授)

業績の課題:「放射化学を通じた化学生涯教育の実践」

化学コミュニケーション賞(団体)

受賞者:化学ポータルサイト Chem-Station

業績の課題:「化学情報伝達・啓発のためのウェブシステムの構築」

化学コミュニケーション賞(個人)

受賞者:栗岡 誠司(神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科 准教授)

業績の課題:「新聞連載とサイエンスショーを通じての化学コミュニケーションの実践」

審査員特別賞(団体)

受賞者:学校法人重里学園 日本分析化学専門学校

業績の課題:「教員のチームワークを活かした化学情報の発信」

審査員特別賞(個人)

受賞者:吉祥 瑞枝, 守 恭助, 山内 閑子(サイエンススタジオ・マリール)

業績の課題:「紙芝居と実験ショーの開発・公演活動 -子供への化学コミュニケーション-」

賞の授与式は3月18日(月)開催予定の第6回日本化学連合シンポジウム「科学技術と社会を結ぶサイエンスコミュニケーション」(化学会館 7F ホール、13:00~19:00)の席上で挙行された。

2.2 第6回日本化学連合シンポジウム

科学・技術を社会に正しくわかり易く伝えて、一人一人が理解や関心を深め、科学・技術への意識を高めるために、科学コミュニケーションの役割が益々重要となってきた。そのためにも、科学に携わるものが社会との双方向の上手なコミュニケーション術を身につける事が望まれている。

本シンポジウムは、企画委員会が担当し、科学コミュニケーションの取り組み方、双方向の考え方およびコミュニケーション術を学ぶために、科学技術に関連して官学メディアで御活躍されている方々に講演を依頼した。

[企画委員会]

委員長	山元 公寿 (理事 東京工業大学 資源化学研究所)
委員	秋山 隆彦 (理事 有機合成協会)
委員	石谷 治 (理事 光化学協会)
委員	伊藤 眞義 (理事 日本ゴム協会)
委員	小松 晃之 (中央大学 理工学部 教授)
委員	田中健太郎 (名古屋大学 大学院理学研究科 教授)

第6回日本化学連合シンポジウム

「科学技術と社会を結ぶサイエンスコミュニケーション」

日時：平成25年3月18日(月) 13:00 - 19:00

会場：日本化学会 化学会館 7階ホール

主催：(一社)日本化学連合

後援：文部科学省、経済産業省、(独)科学技術振興機構、
(株)化学工業日報社、(一社)化学情報協会、
(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会

プログラム：

第1部 シンポジウム「科学技術と社会を結ぶサイエンスコミュニケーション」

1. 基調講演：サイエンスコミュニケーションの広がり—エネルギーのこれから—
(日本サイエンスコミュニケーション協会副会長、科学技術振興機構顧問) 北澤 宏一
2. 講演：研究者とメディアをつなぐサイエンス・メディア・センター構築の試み
(早稲田大学政治学研究科(ジャーナリズムコース)教授) 瀬川 至朗
3. 講演：化学と社会を結ぶサイエンスコミュニケーター (サイエンスライター・サイエンスコミュニケーター) 内田 麻理香
4. 講座：科学を伝える映像コミュニケーション術—振り向く科学映像には訳がある—
(物質・材料研究機構 広報室 広報チーム長) 小林 隆司

第2部 「化学コミュニケーション賞2012」表彰式

1. 選考委員長挨拶・選考結果報告 (日本化学連合理事) 伊藤 卓
2. 授与式 (日本化学連合会長) 西出 宏之
3. 受賞講演 (3件)

第3部 交流会

シンポジウムの参加者は一般参加者87名、招待参加者15名、化学連合役員19名、計121名で、大変盛況であり、講演内容も充実しており、成功裏に終わることが出来た。

3. 会計

平成24年度は会費収入以外に賛助会費、補助金の一部(化学工業日報社、化学情報協会より)をもって活動する予算を立て、「化学コミュニケーション賞2012」、「第6回日本化学連合シンポジウム」の企画・実施に注力した。順調に予算を執行し次期繰越金は約245万円である。

4. 学協会の活動の連携業務開拓の継続

他学協会と連携したシンポジウムを平成 19 年度より継続している。平成 24 年度は以下の企画が実施された。

1. 平成 24 年 10 月 11 日（木）の石油学会秋田大会に於いて、日本化学連合との共同企画講演会が開催され、西出宏之会長の挨拶と化学連合の紹介に続いて御園生誠前会長より「化石資源は 21 世紀のエネルギー・資源戦略の要」の講演があり、関心を持つ聴衆も多く有意義な講演会であった。
2. 第 2 回「フォーラム：人工光合成」、「日本ケミカルバイオロジー学会第 8 回年会」、「高分子学会・第 2 回グリーンケミストリー研究会シンポジウム」などより協賛、後援の依頼があり、賛同した。

5. 将来構想委員会

平成 25 年度以降の化学連合の道筋について 3 回の委員会を開催して議論した。

[将来構想委員会]

委員長	井上 晴夫（代表理事）
副委員長	岩澤 康裕（電気通信大学 特任教授）
委員	大塚 浩二（理事 クロマトグラフィー科学会）
委員	川島 信之（理事 日本化学会）
委員	高田 雅介（理事 日本セラミックス協会）
委員	高田十志和（理事 高分子学会）
委員	高柳 輝夫（理事 日本薬学会）
委員	田門 肇（理事 化学工学会）
委員	中村 洋（理事 日本分析化学会）
委員	山本 鋼志（理事 日本地球化学会）
オブザーバー	中井 武（監査 東京工業大学 名誉教授）

6. 情報発信

化学連合ニュースは本年度 6 回発行した。正会員、賛助会員、役員、委員に送付しており、平成 25 年 2 月末で 84 号「化学コミュニケーション賞 2012」受賞者選考の報告を発行した。

7. 処務の概要

7.1 理事会	3 回
社員総会	1 回
7.2 理事 22 名	
監事 2 名	
7.3. 委員会など	
運営委員会（事業企画・実施）	3 回
企画委員会（シンポジウム企画・実施）	2 回
将来構想委員会（連合のあり方、将来像の提言）	3 回
賞 WG	3 回